



さあ、始まりました！

本当はえろいホロライブ——『えろホロ！』のお時間です！

今週も、地上波では到底お見せできない倫理観ガン無視の60分となっておりますので、皆様どうぞお楽しみください！ MCは毎度おなじみ、わたし「セック鈴木」がお送りいたします！

それでは早速、こちらをご覧ください。

スクリーンに、とある楽屋の隠し撮り映像が流れます。

そこに映っていたのはホロライブが世界に誇る歌姫——すいちゃんこと、星街すいせいさんです。今は別のイベントの待ち時間で、手持ち無沙汰にスマホをいじっていますねえ。そこに、彼女のマネージャーが登場します。

『すいせいさん。ちよつとよろしいですか？』

『ん？ なに？』

『来月のスケジュールについて話しておきたいことが』

すいちゃんがスマホを置いて、マネージャーがデスクに資料を広げます。



『来月の十日なんですけど、番組の出演依頼が重なっております……どちらに出るか、すいせいさんの意見をお聞きしたいんです。ひとつは、これ。マッサージサロンの体験レポートですね』

『マッサージ？へえ、いいじゃん。仕事でリフレッシュできるとか最高つしよ』

『で、もうひとつが……』

『もうひとつが？』

『エロバラですね。手マンカラオケで高得点を目指す……という内容で』

すいちゃんの美貌が露骨に歪みました。

『それってやつぱり、あれ？ えろホロ？』

『はい、そうです』

『はああああ……相つ変わらず頭の悪いことしてんだから』

『どちらに出演しますか？』

『マッサージの方に決まってるでしょ。一秒たりと悩む必要がないわ』

『では、えろホロの方は出演を見送るよう返信しておきますね』

『よろしく』

マネージャーが退室すると、すいちゃんは一安心したような笑みを浮かべます。

『あつぶね。ダブルブッキングでよかったあ』

ここ、ちよつと説明させていただきますね。

基本的に、ホロメンはえろホロの出演を断ることができないんですよ。たとえスケベNGの娘だとしても、当番組とホロライブの間で交わされた独占契約は絶対的な効力を持っていますからねえ。ですが、今回のようにダブルブッキングが発生した場合はまた別でして……どちらに出演するか、決定権はタレントにあるのです。

つまりすいちゃんは、偶然にも別番組とロケ日が重なっていたおかげで、今回のえろホロ出演を回避できたというわけですが……残念！ すべては我々の手の平の上なのです！

ここで今回の企画を発表いたしましょう。

じゃじゃん！

『エロバラ出演回避のためなら多少のことは受け入れてしまう説』

こちらの説を検証するためのゲストはあ……今更言うまでもありませんね。

はい、星街すいせいさんになります。

観客席、いい反応ですねえ。

すいちゃんといったら、世界を変えるアンダーサーティーにも選ばれたガチの有名人ですからねえ。普段はゴールデンの歌番組などに出演し、エロバラエティとは無縁の世界で生きています。

え？ そんなスーパースーパースーアイドルをオナホにしちゃっていいのかって？

もちろん、いいんです——そう、えろホロならね。

ではでは、ロケ当日の様子を見ていきましょうか。

スクリーンが切り替わって、すいちゃんの笑顔が映し出されます。

『みなさん、こんにちわ。彗星のごとく現れたスターの原石、星街すいせいでーす。今回はですね、都内でも指折りのマッサージサロン「ブランド」にお邪魔いたしております。その人気の秘訣を今からこの身で体験してこよう、おつもいまーす』

よそ行きの、気持ち高めの声色でオープニングトークを終えたすいちゃんは、そのままお店の中へと入っていきます。今回は私服でのロケですが、すいちゃんはプライベートファッションも洗練されていていいですねえ。

『はじめまして、星街さん。今回施術を担当する、神保薫です』

『はじめまして、よろしくお願いします』

『それでは早速ですが、あちらの更衣室で施術衣に着替えてくれますか。すいや……あ、いえ。失礼しました。星街さん』

『あら。すいちゃんでも構いませんよう？』

『ほ、本当ですか？ 実はわたし、星詠みでして……すいちゃんがデビューしたときから、ずっと応援していました』

『えゝ本当ですか？ 嬉しいなあ』

と、和やかなムードで進むかと思われたロケですが、

『えっ……こ、これに着替えるの？』

更衣室にて、マイクロビキニのような施術衣を手に、すいちゃんは眉を顰めます。

同伴しているマネージャーはすいちゃんを宥めるように、

『まあまあ、いいじゃないですか。相手も女の先生ですし』

『そうだけどもさあ……うゝん』

『どうしても恥ずかしいなら、今日のロケはキャンセルにしますか？ その代わり、えろホロの撮影に参加してもらうことになると思いますけど。当日いっぱいまで返事を待っているとのことでしたので、今からでも間に合いますよ』

『待つな待つな……出ないっつの』



溜め息混じりにぼやくと、すいちゃんは渋々着替えを始めました。

マネージャーさん、いい誘導ですねえ。

もう言うまでもないでしょうが、彼女も我々の協力者……仕掛け人でございます。

すいちゃんはそのスレンダーボディに施術衣を纏わせ、施術室へと移動します。

施術台でうつ伏せになると、神保先生が早速マッサージを開始します。たおやかな指が背中を揉みほぐし、すいちゃんが気持ちよさそうに目を細めます。

「ああ、そこ……うんっ」

「いかがですか？」

「はい、いいです……」

「お背中全体がやや凝っているようですね。最近、立ち仕事が多かったのでは？」

「そうですね……ここんとこ、レコーディングが立て込んでたから……」

この通り、神保先生は仕掛け人でありながら腕は確かです。

その卓越した按摩術と、施術室に焚かれたお香の効果で、すいちゃんの見蓋が半ば閉じていきます。ときおり漏れ聞こえる「あっ」とか「んんっ」とかい

う声が艶めかしくていいですねえ。これだけでも有料級ですよ。

つとまあ、生ぬるいマッサージはここまでにして……

そろそろエロバラエティの本領発揮といきましょうか。

神保先生はすいちゃんに上体を起こすよう言います。

そして背後から、抱き締めるようにすいちゃんの胸に手を伸ばします。

「次はお胸のマッサージをしていきますね？」

卑猥な手つきでおっぱいを撫で回され、感度が高まっていたすいちゃんは「ひんっ……」と小さく喘ぎます。その声を聞いた先生の顔といたら……観客席の皆さんと大差ないですねえ。何しろ、この人が星詠みだっていうのは設定ではなくガチですから。

「はあ、はあ……すいちゃんのおっぱい……」

「せ、先生……？」

「あ、なんでもないですよ。次は先っほの方、失礼しますねえ。ふふふ」

「先っほって、そこ……乳首、んんんっ♡」



施術衣の上からくりくりと乳首を転がされ、すいちゃんは身体を弓なりにしならせます。この様子を見ると、貧乳ほど感じやすいっていうのは本当です。ええ。まだ序の口なのに、早くも地上波では見せられない顔になっちゃってます。

先生はそのままの勢いで、施術衣の内側にまで指先を潜り込ませます。施術衣がずれて、すいちゃんの乳首がカメラの前にこんにちはです。

『ちょ、待って……み、見えてるう♡』

『マッサージ中にはよくあることですよ』

『そういう問題じゃ……マ、マネちゃん♡ ちょっとストップさせて♡』

助けを求めるすいちゃんですが、マネージャーは冷静に「ここで投げたならホロ出演不可避ですよ」というカンペを突き出します。それだけはしたくないすいちゃんは、観念したような顔で文句を飲み込むしかありません。ピンピンに勃起した乳首を散々いじめた先生は、次にすいちゃんの下半身を責めます。

まずはパンツの上から……こすこすこす。

『はああああん♡』

フー。こういうときでもよく通る声です。ええ、ほんと。

先生の指はすぐに布切れの中にまで侵入し、アイドルまんこを掻き回します。

『ンおっ♡ おっ♡ おっ♡ おっ♡』

『うふふ、いいですよ……声我慢しない方が、気持ちよくなれますからねえ』

『ま、待って♡ 待ってってば♡ こんなのおかし……おっふ♡』

『なんんにもおかしいことなんてないですよ。女性の膣内はツボの宝庫ですからね。ここをいじるだけで、全身のあらゆる凝りを解消することができ

るんです……ほらほら、ほら』

『やっ♡ あんっ♡ 激しっ♡ こんなのお茶の間に映せな……ッ♡』

『はあ、はあ……すいちゃんのおまんこ、愛液ぬるぬる……いつもは強気な女気取ってるくせに、ちよつとまんほじされただけでびちょびちょになるの可愛すぎ♡』

『あああっ♡ だめえ♡ イっちゃうイっちゃううう♡』

すいちゃんはひっくり返りそうなほど身体を仰け反らせると、びくびく痙

攣しながら大量の潮を噴き出しました。その様子を間近で眺めながら、神保先生は濡れた指先をべろりと舐めます。

『あは♡ すいちゃんのこと、イかせちゃった♡』

もはや先生は、完全にすいちゃんのことを獲物として見ています。

すいちゃんもはや乳首もまんこも丸出しの裸同然となり、ベッドの上で手足を投げ出しながら「ンおっ♡ ンおっ♡」とオットセイのマネ。未だにオルガスムスが終わらないのか、時折り腰を持ち上げてはびゅーびゅーとお漏らしを繰り返しています。

まさに据え膳って感じです。ええ。

『すいちゃん……わたしもう、我慢できません♡』

神保先生は紅唇を淫靡に歪ませて、ゆっくりとズボンを下ろします。そこには……立派な男根がそびえ立っていました。

『へっ?』

すいちゃんの両目が点になります。

『え? え……えええ? それ、なん……ち、ちん……?』
『騙してごめんなさい。わたし……おちんぼの生えた女なんです♥』
『それって、つまり……お、男じゃねーか!』
『やん、そんな風に言わないで……自前のペニバンがついてるだけで、心は女なの♥』

先生はすいちゃんの足を広げ、美しい顔には見合わないグロテスクな巨根を構えます。

『や、やだ……誰か、この人止めっ』
『逃げちゃ駄目ですよ、すいちゃん♥』
『ちんぼマッサージ、入りま〜す♥』
『ンほおおおオオオ——ッ♥♥』

まだ撮影の途中なんですから……お



先生のデカマラが深々と突き刺さり、すいちゃんは即座に絶頂。いき潮が先生の顔にびちゃびちゃと降り注ぎます。先程のアクメの余韻が抜けきっていないせいか、凄く水柱です……天井に届きそうですよ。

先生はすいちゃんの両足を抱え持ち、夢中になって腰を振ります。

『おほっ♡ やっべ♡ すいちゃんのおまんこ気持ちよすぎっ♡ ずっと、ずっとこうしたかったの♡ すいちゃんをぶち犯すの夢見て毎日ちんぽこシコってたんだよ♡』

『おっ♡ やめっ♡ こ、これ、レイプ♡ 犯罪♡ 犯罪いい♡』

『レイプじゃないですよ、マッサージ♡ ほうら、気持ちいいでしょ♡』

『ンおおお。お。おっ♡ おんっおんっおんっ♡』

『あーすいちゃんのオホ声たまんねー♡ 金玉に響くうー♡』

先生は陶然とした面持ちで、絶え間なく抽搐を続けます。

すいちゃんもすいちゃんでもがっつり感じているらしく、その表情は神保先生のそれと大差ありません。遠目には美女同士のまぐわい……しかし、先生の股間から生えたそれは紛れもなくメスを屈服させるための肉棒です。

すいちゃんはまんまとその支配下に置かれてしまいました。

『あーん♡ もっと楽しみたいのにザー汁込み上げてきちゃった♡ ごめんね、すいちゃん♡ とりあえず一発出しちゃうね♡』

『ま、待っへ♡ な、なか……なかは、らめっ♡』

『中はらめえ？ うーん、そうだよねえ……すいちゃんはアイドルなんだから、妊娠なんてしちゃったら大変だもんね……でも出しちゃお♡』

『おっほおおおおオオオオオオオンっ♡♡』

びゅぐっ♡ びゅぐっ♡ びゅぐっ♡ びゅぐっ♡ びゅぐっ♡

その瞬間、すいちゃんの両足が「びーん♡」と伸び、爪先を震わせます。

ちよっとカメラの位置が悪いので移動してもらい、二人の背後から結合部を捉えます……ああこれは、とんでもない射精量ですねえ。根本までぶっ刺さったちんぽが小便のような勢いで精液を吐き出しています。

『ほぐっ♡ おっ♡ へっ……ああ。あッ♡』

『やだあ、アへ顔のすいちゃんも可愛すぎ♡ キスしちゃいますね♡』

『んちゅううううう……♡』

積年の想いが暴走してしまっているのか、神保先生はさっきからこちらが用意した台本以上の行為に及んでいます。本当はもっとじっくり種明かしする予定だったんですが、こっちの方がエロいからまあいいでしょう。

すいちゃんの膣内に一発目を出し終えた神保先生は、抜かずの二戦目を開始です。

今度はすいちゃんを四つん這いにして、デカケツを掴みながらずっこんぱっこん。

『んごっ♡ おっぐ♡ そ、それ、らめっ♡ 奥まで、抉れて……っ♡』

『うふふ、そうでしょう♡ この体勢だと、簡単に奥まで届いちゃうんですよ♡』

♡ ボルチオに向かって、ごっごっ♡ ごっごっ♡ 連続ノックです♡ こ

うやってやると、女の子はすぐに子宮を支配されちゃうんですよ♡ それが

どういう意味かわかります？ すいちゃんももう、わたしのオナホってこと

ですよ♡』

『ンっほお♡ おおおっおんっ♡ あ、頭、トぶ♡ トんじやううう♡』

ぶじゃあああああああああああああつと愛液が迸り、またしても絶頂に達するすいちゃん……もうこれが何度目かなんて誰も覚えてないでしょうが、画面隅のアクメカウンターが確かならちようど十回目だそうです。

なんと！

これまたとんでもない量の種汁放出です！

ちんぽさえ隠せば華奢な女性にしか見えない神保先生ですが、あくまでも性別は男……抵抗するすいちゃんをいとも容易く押さえつけ、全身でのしかかるようにしながら寝バックでフィニッシュです。

『おっ……オッ………♡』

いき疲れたてしまったのかすいちゃんはぐったりとしたままで、時折り思い出したかのように身体が痙攣しています。その間にも神保先生のザーメンがどっぶどっぶと歌姫まんこを制圧し、二人の赤ちゃんを作ろうとしています。



先生はまだまだやる気満々だったようですが、時間が押しているのでそろそろ締めなくてははいけません。続きは撮影の後にでも個人的に楽しんでもらいます。

ちんぽが引っこ抜かれると、すいちゃんの膣穴から濃厚なスperlマが「どろおっ♡」と溢れ出てきます。お股をおっ広げたまま動けなくなっているのが無様な感じでグッドですねえ。

施術室の外で待機していたえろホロスタッフが登場し、ドッキリ大成功の看板を掲げます。

虫の息だったすいちゃんはしばらく呆然と看板を見上げていましたが、やがて額に青筋を立てながら身体を起こします。

『すいせいさん。これ実は、えろホロです』

スタッフが平然と言い放ちます。

『だろーなあッ！』

すいちゃんはスタッフの顔面に枕を投げつけました。

怒り狂うすいちゃんを鎮めながら、マネージャーが今回の企画を説明します。その話を聞きながらすいちゃんは、ときに怒り、ときに呆れ、ときに恥じらいながら、黙って耳を傾けていました。

『じゃあすいせいさん。最後に、スタジオの皆さんに向かってどうぞ』

『は？ 死ねの一言ですけど？』

『それはコンプラ的にちょっと』

『どの口がコンプラとか言ってるんのよ。なあおい、聞いてるかスタジオの変態ども？ お前ら覚えてろよ？』

すいちゃんはカメラの正面に陣取り、厳しい口調で恨みつらみを爆発させます。

そこでスタッフが気を利かせ、神保先生に目配せをします。

先生は「はーい」と小走りですいちゃんの背後に忍び寄り、左右の乳首を抓ります。その途端にすいちゃんは語気を震わせて「ンほおおおおッ♥」と絶叫します。

『すーいちゃん。もつと穏便にトークしろって言われてますよ？』

『う、うっさ……知る、か♥ と、とにかく……あたしはもう、二度と出演しないからッ♥ こんな……こんなキシヨい番組、絶対に……ンうううッ♥ お、っ、やべっ……また、イぐッ♥ カ、カメラ止めっ……オほおおおッ♥』

と、カメラのレンズが水浸しになったところで……そろそろお別れの時間になってしまいました。いやあ毎度のことながら早いですねえ。

ちなみにすいちゃんと神保先生は、なんだかんだで友達になったそうですよ？

果たしてこの収録の後、二人に何があったんでしょうかねえ……気になる方はVIP会員登録をして、限定動画をチェックだ！ 通知のオンとグッドボタンも、よろしくお願いしまっす。

では、次回のえろホロでまたお会いしましょう。











